

■ 令和2年度 第1回 新潟市スポーツ推進審議会

日時：令和2年9月8日（火）午後3時から

会場：白山会館 2階 胡蝶

（事務局：新井田）

本日はご多忙の中、令和2年度第1回新潟市スポーツ推進審議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきますスポーツ推進審議会事務局、新潟市スポーツ振興課の新井田と申します。よろしくお願ひいたします。

会議に入る前に資料の確認をさせていただきます。使用いたします資料は、本日机上に配付してあるものと先日郵送しご持参をお願いしたものがございます。本日机の上にご用意した資料は、次第、新潟市スポーツ審議会席次表、第1回新潟市スポーツ推進審議会名簿、続いてホチキス留めで1部となっております「新潟市スポーツ審議会条例」と併せてついております「スポ柳都にいがたプラン推進会議設置運営要綱」、続きまして、資料1「新型コロナウイルス感染症にかかる新潟市体育施設の利用休止期間について」、資料2「令和2年度当初予算総括表」、うしろのほうに予算事業説明書もついております。続いて資料3「新潟ヒルクライム」、資料4「新潟シティマラソン代替イベントについて」、資料5「東京2020大会の概要等について」、資料6「令和3年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)について」、以上になります。

続いて、事前に送付させていただいた資料の確認をお願いいたします。新潟市スポーツ推進計画第2次「スポ柳都にいがた」プラン、同プランの概要版、同プランの実施計画の3点となっています。以上になりますが、過不足はありませんか。

続きまして、会議の公開及び議事録の取り扱いについてご説明いたします。本市の指針によりまして、会議は原則として公開することとしております。この審議会につきましても傍聴は可能となります。本日の会議の内容につきましては、後日会議概要または会議録を作成し、ホームページなどで公開させていただきます。会議概要等作成のため、録音させていただきますことをご承知おきください。

続いて、ここでこの審議会の目的などについて簡単にご説明いたします。お手元の資料、新潟市スポーツ審議会条例をご覧ください。第1条、第2条にありますとおり、この新潟市スポーツ推進審議会は、スポーツ基本法の規定に基づき、条例によって設置されている市長の附属機関でございます。なお、スポーツ基本法第31条は、地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議させるため、条例で定めるところにより審議会

を置くことができるとなっているものでございます。審議会条例の第3条では、市長の諮問に応じて記載の七つの項目を調査審議し、市長に建議していただくこととございます。具体的な諮問となりますと、本市スポーツ推進計画の策定があり、次期計画の策定にかかる諮問は来年度を予定しております。また、この審議会は計画期間中においては事業実績の評価に対するご意見をいただくことで計画が着実に進行しているかのチェック機能を果たしていただいております。加えて、予算や事業、スポーツの重要トピックなどをご報告する場とさせていただきます。

次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、長浜文化スポーツ部長があいさつを申し上げます。

(文化スポーツ部長)

皆様、こんにちは。今日は大変暑い中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。この4月から文化スポーツ部長を務めております長浜裕子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、委員の皆様には日頃から本市のスポーツの推進振興にご助言を賜っておりまして、この場をお借りしまして感謝を申し上げたいと思います。今回も、このスポーツ推進審議会の委員をお引き受けいただいたということで重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。任期は2年ということでございます。今年度から新たな任期が始まったということで、今日は第1回目の会議となります。コロナがなければ、もう少し早い時期に開催していたのですが、コロナの状況を見ていたということで今年度に関しては少し遅めの第1回となっております。これから2年間、皆様方には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

今、申し上げましたように、コロナということでいろいろなことが私たちの生活に影響しております。このスポーツに関しても同様でございまして、各種大会が中止される。一番大きいのは東京2020が延期されたというようなことがございます。この東京2020に向けていろいろな機運醸成を図ってきたところからすると、延期は一時的には選手をはじめ多くの方々がご心配や不安な気持ちになったのではないかと思います。幸いにして昨日、コロナを乗り越えてやっていくのだというようなオリンピック組織委員会の言葉もあったということです。また新たな気持ちで向かっていければなと思っております。

そういう中でも、少しずつスポーツも再開がされておまして、このあとで報告がございませうけれども、この日曜日にヒルクライムという自転車競技が開催されました。県外からの参加者の方も非常に多く、そういう機会を待ち望んでいたのだなと実感しています。スポーツの大切さ、日常にスポーツがあることの喜びというものを改めて認識しているところでご

ざいます。

そういう中で、皆様方から忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、新潟市のスポーツがますますよい方向に向かっていくようにしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

(事務局：新井田)

ありがとうございました。

続きまして、次第の3、自己紹介に移ります。今回は4月の委員改選後、初めての審議会でございます。はじめに、委員の皆様方のご紹介をさせていただきますので、私のほうでお名前をお呼びいたしましたら恐れ入りますがコロナ対策としてマイク無しとなっておりますけれども、ご起立のうえ、ひとこと自己紹介をお願いしたいと思います。

青野光子委員、お願いいたします。

(青野委員)

新潟青陵短大の青野光子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、五十嵐久人委員、お願いいたします。

(五十嵐委員)

五十嵐久人と申します。新潟大学を数年前に退職いたしました。また今回も委員ということで、ぜひよろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、太田玉紀委員、お願いいたします。

(太田委員)

太田玉紀と申します。猫山宮尾病院の内科に勤務しております。よろしくお願い致します。

(事務局：新井田)

続いて、小島良子委員、お願いいたします。

(小島委員)

小島良子と申します。新潟市立日和山小学校で地域教育コーディネーターをしております。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、齋藤洋一郎委員、お願いいたします。

(齋藤委員)

名簿5番の齋藤です。よろしくお願い致します。大変うっかりしておりまして、NHK文化

センターは昨年の 10 月をもちまして閉鎖されておりました。今はライバルである日報メディアシップのカルチャーや専門学校講師をしております。これではいけないということでしたら、即辞任いたしますが、よろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、西原康行委員、お願いいたします。

(西原委員)

新潟医療福祉大学の西原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、山本智章委員、お願いいたします。

(山本委員)

新潟リハビリテーション病院の山本と申します。専門は整形外科をやっております。よろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、小野和子委員、お願いいたします。

(小野委員)

小野和子といます。バドミントン一筋で 60 年、あとほかはよく分からないのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、田村千恵子委員、お願いいたします。

(田村委員)

田村千恵子です。新潟市インディアカ協会の理事長をしています。よろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、野田文江委員、お願いいたします。

(野田委員)

野田文江です。去年は随分迷惑かけました。すみませんでした。本当に今日、ここに座ることを恥ずかしく思っています。障がい者水泳を主にやっております。よろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、速水裕委員、お願いいたします。

(速水委員)

新潟市スポーツ推進委員連盟の会長をさせていただいております速水です。よろしくお願いいたします。

いたします。

(事務局：新井田)

続いて、丸田徹委員、お願いいたします。

(丸田委員)

新潟県障害者交流センターの丸田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、山内春夫委員、お願いいたします。

(山内委員)

新潟市スポーツ協会の副会長を務めております山内でございます。よろしくお願い致します。

(事務局：新井田)

続いて、阿部美子委員、お願いいたします。

(阿部委員)

新潟市立小須戸幼稚園園長をしております阿部美子と申します。よろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、長谷川智委員、お願いいたします。

(長谷川委員)

新潟市小学校体育連盟の副会長の長谷川智でございます。所属は大形小学校です。よろしく申し上げます。

(事務局：新井田)

続いて、田巻明恒委員、お願いいたします。

(田巻委員)

公募委員の田巻と申します。「スポ柳都にいがた」の策定の際に何年か委員をさせていただきまして、西原先生の最初のひとことをすごくよく覚えていますので、よろしくお願いいたします。

(事務局：新井田)

続いて、山田規央委員、お願いいたします。

(山田委員)

はじめまして。山田規央と申します。縁あって公募枠でご採用いただきました。ありがとうございます。皆様のご指導をあおぎながらこの役割を2年間務めさせていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

(事務局：新井田)

以上でございます。ありがとうございます。

委員改選に伴いまして、本来であればお一人お一人に委嘱状をお渡しするところですが、机上配付に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。なお、本日、高橋直子委員、笠原和子委員のお二人は都合によりご欠席でございます。

議事に移らせていただきます。まず、定足数の確認です。本日の出席委員についてですけれども19名の委員総数のうち17名が出席となっております。新潟市スポーツ審議会条例第7条第2項の規定により、過半数の出席を得ておりますので、本会は成立いたしますことをご報告します。

次第にしたがいまして進めさせていただきます。本日の議題の一つ目、正副会長の選出に移ります。会長、副会長の選出は新潟市スポーツ審議会条例第6条第2項により、委員の皆様の互選により決定することとなっております。つきましては、武藤課長を仮議長として会長、副会長の選出の議事を進めてまいりたいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。会長、副会長選出までの間、武藤課長が仮議長として進行させていただきます。

(スポーツ振興課長)

恐縮ではございますが、会長選出まで仮議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

会長、副会長の選出に入ります。事務局から説明がありましたとおり、条例第6条によって委員の互選により決めることとなっております。選出の方法は皆様からのご推薦により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

ご異議がないようでございますので、皆様からのご推薦をお受けしたいと思います。皆様、よろしくお願いいたします。

(速水委員)

前回と同様に、西原委員に会長を、山内委員に副会長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

(スポーツ振興課長)

ありがとうございました。改めまして、皆様、よろしいでしょうか。では、西原委員から会長に、山内委員から副会長にご就任いただくということでよろしくお願いいたします。西原会長は恐れ入りますが会長席にご移動をお願いいたします。仮議長はこれにて解任させて

いただきます。ありがとうございました。

(事務局：新井田)

ご就任いただきました西原会長、山内副会長様よりひとことずつごあいさつを頂戴したいと存じます。

(西原会長)

改めまして、新潟医療福祉大学の西原でございます。今ほどは会長という非常に重い任務を託されまして、改めて身の引き締まる思いですけれども、2年間ですけれども、委員の皆さん、それから山内副会長を支えていただいて、滞りなくこの審議会を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

先ほど部長からもお話がありましたように、このコロナ禍の中でスポーツのあり方というものも問われています。また、2020のオリンピック・パラリンピックもどういう形になるのか分かりませんが、そういった課題もあります。それから、おそらくこの2年間で、スポーツ基本計画「スポ柳都にいがた」も後半でおそらく新しい形のものと考えていかなければいけないといったことも、この審議会の中でやっていかなければいけないと思っておりますけれども、ぜひ皆さんから忌憚のないご意見をいただきながら進めていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

(山内副会長)

山内でございます。西原会長を皆様方と一緒にサポートさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(事務局：新井田)

ありがとうございました。これより会長を議長とし議事進行をよろしく願いいたします。

(西原会長)

早速議事に入りたいと思います。議事(2)「スポ柳都にいがた」プラン推進会議委員の選出についてですけれども、次第に従ってやっていきたいと思っておりますので、事務局から説明をよろしく願いいたします。

(事務局：高橋)

「スポ柳都にいがた」プラン推進会議委員の選出について説明させていただきます。まず、この新潟市スポーツ推進審議会では、本日、委嘱状を配付させていただいたとおり、2年という任期で皆様に委員を委嘱いたしました。このスポーツ推進審議会とは別に、「スポ柳都にいがた」プラン推進会議というものを、この審議会の中に設置しております。それにつきましては、また別の要綱がありまして本日、皆様のお手元に条例をお配りしましたが、一番下の一枚もので「スポ柳都にいがた」プラン推進会議設置運営要綱がありますので、そちらを

ご覧いただきたいと思います。

「スポ柳都にいがた」プラン推進会議の委員の皆様を構成員とする、「スポ柳都にいがた」プラン推進会議では、「スポ柳都にいがた」プランの実施事業の評価や計画の策定を行っております。今回、初めて審議会の委員になられた方もいらっしゃいますので、新潟市スポーツ推進計画第2次「スポ柳都にいがた」プランについての概要から説明させていただきます。

本日、お持ちいただきましたプランの冊子をご覧ください。3ページをご覧ください。第2次「スポ柳都にいがた」プランで目指すところは、「市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもだれとでもスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現」です。その実現に向けてということで、この冊子の4ページから17ページに記載のとおりになりますが、健康スポーツ、競技スポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツ、最後に、スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制の基本方針及び基本の目標を定めております。

続きまして、18ページをご覧ください。本プランの到達目標といたしまして、週1日以上スポーツをする市民の割合を65パーセント以上にすることを掲げております。これは国のスポーツ基本計画におけるスポーツ実施率の目標値と同様のものです。なお、本プランの計画期間でございますが、平成27年度から、この冊子ですと平成34年となっておりますけれども、そこまでの8年間でございます。

最後ですが、20ページをご覧ください。このプランを推進するためでございますけれども、具体的な実施計画といたしまして、「スポ柳都にいがた」プラン実施計画を2年ごとに策定しております。毎年度、各事業の実施状況进行评估しております。その際になります。これからご推薦いたします推進会議委員の皆様からさまざまな意見をいただいております。

なお、今年度でございますが、本実施計画第3期の2年目になります。今年度の推進会議で令和元年度における基本方針ごとの評価を委員の皆様のご意見をいただきながら実施いたします。年度が進みまして、令和3年度の会議の予定でございますけれども、今年度、令和2年度の事業の実施状況进行评估することになります。また、併せて先ほど会長からもお話がございましたが、令和3年度から令和4年度への2年間の最後の実施計画の策定及び次の第3次「スポ柳都にいがた」プランの策定に向けて動き出します。なお、今年度の次回の審議会では、令和元年度における基本方針ごとの取組みについて推進会議において評価していただいたものを提示させていただきたいと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。早速ですが、推進会議委員の選出に入りたいと思います。事務局案がありましたらお願いいたします。

(事務局：高橋)



続けて説明させていただきます。今回から新たに加わっていただきました公募委員の2名の方を加えまして、前回からの委員の方に引き続きお願いいたしたいと思っております。この案でございますけれども、二つの分科会を設けておりますけれども、健康スポーツ、支えるスポーツ、スポーツ情報ネットワークには西原会長、青野委員、速水委員、田巻委員を。競技スポーツ、みるスポーツ、スポーツ医科学支援体制には山内副会長、齋藤委員、山本委員、山田委員、以上の8名の方をお願いしたいと思っております。

(西原会長)

ありがとうございました。ここまでのところで委員の皆さんからご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。ないようでしたら、ただいま私も含めてですが事務局から推薦のありました委員の皆様、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

では、異議なしということでよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

先ほどもご説明がありましたように、今年度は第2次の「スポ柳都にいがた」プランの実施計画の第3期の2年目にあたります。推進会議の委員になられた方々には、次の審議会に向けての実施計画の評価がありますけれども、よろしくをお願いいたします。

次の議題に入ります。報告事項になります。報告(1)新型コロナウイルス感染症への対応について、それから(2)令和2年度当初予算事業について、一括で事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：佐藤)

一括で説明させていただきます。まず、お手元に資料1「新型コロナウイルス感染症にかかる新潟市体育施設の利用休止期間について」をご覧ください。まず、赤と青は、赤い枠については基本的に施設の休止の部分、青い枠については利用しているという部分という形で表示させてもらっています。本市におきましては、まず市内の1例目といいますか最初の感染の確認ができましたのが2月29日でございます。そのあとすぐ国では新型コロナウイルスの感染対策本部なるものがございまして、そこで安倍首相からスポーツジムやビュッフェ形式の食事などということで例示をされた中で自粛を求められた経緯がございます。また、新潟市の感染状況につきましても2月29日に1例目を確認されてから、幾例かが立て続けに報告されたところから、お手元でございますように、まずは屋内体育施設のトレーニング室やクライミングルームと、あとは一部、新潟市体育館で感染が確認された方がご利用されたという申し出がありましたので、1日早く3月3日から休止をいたしました。併せて3月4日の日には全体育施設が休止することとなりました。

表にありますように、3月いっぱいにおきましては国の自粛の要請の動向を注視している

中で、まずは3月15日までということでは休止期間を設けておりましたが、その後、3月いっぱいまで全施設の利用休止を継続していたところです。4月になりますと、ある程度、感染のリスクと申しますか、感染の可能性が低い活動から再開してはいかかかというところがございます。まずは屋外体育施設と屋内体育施設でのプールやアイスアリーナにつきましては比較的感染リスクが低いということで、4月1日にまずは再開させてもらっていたところです。ただし屋外体育施設の野球場ですとか競技場、フットサルコートにつきましては、一般的な見地で何分コンタクトスポーツと申しますか身体接触が伴うスポーツということで一部休止を延長していたところです。その後、政府から緊急事態宣言が全国に発令されて、それを受けた新潟県も同じく緊急事態宣言を発令したことを受けて、一部利用を再開しておりました屋内体育施設につきましても再度、利用休止とさせていただきます。

5月になりますと、緊急事態宣言がある程度収束、終わりではないのですが、感染者の数が新潟県内、市内におきましては数週間にわたって感染が出ないという事情もございまして、施設の再開、いわゆる社会経済活動も再開していかねばいけないのではないかと申すところもありまして、施設再開をまずは屋外体育施設を5月11日からということではさせてもらっています。この5月11日に先立ちまして、5月8日にはホームページ等でも掲載してございますが、新潟市の体育施設でコロナ感染症の感染拡大予防ガイドラインというものを策定させてもらった中で、そのガイドラインに基づいて再開をさせてもらったところです。以降、屋内体育施設それぞれ若干再開の日は違いますけれども、それぞれの感染状況の推移や国の自粛要請の動向、県の類似施設の再開の動向等を注視しながら、それぞれ再開させてもらったという経緯があります。

体育施設の今回のコロナ禍における利用休止の一連のものについては、ざっとこの表にまとめさせてもらっておりますが、あとでまたゆっくりとご覧になっていただければと思います。

引き続き、(2)として資料2「令和2年度当初予算総括表」をご覧ください。本来であれば今年の3月に、このように審議会を設けさせてもらいまして報告すべき事項ではございましたけれども、コロナ禍の中で中止をさせていただいたというところで、遅くなりましたが改めて令和2年度の予算につきまして報告させていただきます。

若干、年度に入りまして月が進む中で当初予算の内容と変わっている部分もございまして、次ページ以降、そちらも交えて主要な部分を紹介させていただきます。大まかに1の歳入にございまして四つ目がスポーツ振興課になっております。こちらにつきましては、令和2年度が1億129万2,000円ということで、平成31年度、令和元年度から1,000万円強減となっておりますが、これについては施設整備等でスポーツ振興くじの助成金をいただいております。

ます。その施設整備の内容によって若干、金額が減少したということになります。

2番の歳出、同じく上から4番目のスポーツ振興課の欄をご覧ください。令和2年度、6億6,448万3,000円ということで、昨年度よりは4,500万円ほど増となっておりますが、これはオリンピック・パラリンピック事業の拡大分ということで予算を組んでおります。

2ページの一般会計ということで、スポーツ振興課の分ということで表示がございました。2欄目の事業名、①から⑩までざっと主要事業を載せております。①新潟シティマラソンの開催ということで、皆様ご存じのように昨年も台風で中止になっておりましたが、今回もコロナウイルスの影響ということで大会は延期という形にさせてもらっています。四角囲みの太字で書いてございますように、予算につきましては大幅に減額をさせていただくということで、6月議会ですでに諮っていたところでございますが4,000万円の減となっております。その代わりに新潟シティマラソンの代替イベント開催事業ということで、またこのあと説明がございましたが、6月議会で2,000万円の事業費ということで組ませていただいております。②につきましては、自転車活用事業で6月のシティライドについては残念ながらコロナ禍の中で中止となりましたが、先日、ヒルクライムを開催させてもらっているところでございます。こちらもちあとで報告をさせていただきます。

3ページの③早起き野球大会の開催ということで、日本一の参加チーム数を誇る新潟市での早起き野球大会だったのですが、これも残念ながらコロナウイルスの影響により中止となっております。続きまして④少年少女スポーツ大会につきましても、ミニバスケットについては中止となっております。その他の野球、サッカー、バレーボールについては今週から順次開催させていただきます。

⑤氷上スポーツは新潟市のアイスアリーナにおきまして、小学校の児童から氷上のスポーツを体験していただくというものになってございます。

続いて、4ページをご覧ください。⑦障がい者スポーツ大会関連事業、パラリンピアンの方からパラリンピック競技のスポーツの普及という部分のものなのですが、まずは障がい者スポーツ大会につきましても、括弧の中にありますようにコロナウイルスの影響のため全国大会は中止になりましたし、⑧につきましても本来であれば障がい者スポーツのナショナルチームの方の合宿というところが予定されていたのですが、こちらもち中止という形になっております。

続いて、5ページをご覧ください。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進事業ということで、こちらもち皆様ご存じのようにオリンピックにつきましても来年に延期されたという中で、6月議会で減額補正を承認いただいているところでございます。事業費としては2,600万円の減となっております。オリンピックの関係につきましても、このあと

ご報告させていただきます。主要な予算、令和2年度の当初予算の説明は以上になります。

(西原会長)

ありがとうございました。新型コロナウイルスのことや、事業が特にコロナウイルスに関連していますので、二つ一緒に報告させていただきました。二つ合わせまして委員の皆様から何かご意見ありましたらお願いいたします。

(五十嵐委員)

当初予定されていた行事もコロナ関係で中止になっているということで、その分、お金を使うところが使わずに済んでいるという部分もあるし、減額になっているというところもあるとは思いますが、そういったお金はまだ分からないとは思いますが、何に回ったのですか。

(事務局：武藤)

例えばスポーツ振興課の経費の中で減額をしたということになりますと、その減額した部分をスポーツ振興課で自由に使えるというものではなくて、市の財布にお返しするという形になりますので、例えば他事業で新たに必要になってくる、コロナ対策への財源といった部分に使われることになりますので、改めてスポーツ振興課ですぐに別の事業に振り替えられるということではございません。

(五十嵐委員)

ありがとうございました。これからはウィズコロナなので、お金をそういうものに回していただければ安全にスポーツに親しめるかなと思って質問いたしました。ありがとうございました。

(西原会長)

ありがとうございました。逆にウィズコロナでスポーツを行う上の感染対策のために少し予算を振り分けていくみたいなことはあるのでしょうか。

(事務局：武藤)

特段、コロナ対策ということでの予算組みはないのですが、例えば先ほど説明しましたマラソンの代替のための経費を新たに計上させていただいたり、既存の予算の中で、例えばアルコールといった施設に設置するために必要な経費については、通常予算の中から捻出して対応させていただいているということでございます。

(西原会長)

ありがとうございました。よろしいでしょうか。ほかに、いかがでしょうか。

(田巻委員)

非常に初歩的な恥ずかしい質問なのですが、1ページ目の歳入と歳出に関してです

けれども、歳入というのは文化スポーツ部に市からこれだけのお金がおおりるよということでよろしいのでしょうか。歳出はスポーツ振興課関係だったら6億6,448万3,000円支出予定だよという考えでよろしいのでしょうか。

(事務局：武藤)

歳入につきましては、市に入ってくるというものになりますし、歳出についても市の財布からスポーツ振興課が使えるお金ということになります。

(田巻委員)

分かりました。もう一ついいですか。先ほど西原先生もおっしゃっていた、五十嵐先生もそうなのですが、例えば私の知る限り、市の体育館なんかでも今日やっていただいた検温の装置だとか、いろいろな消毒のアルコールはもちろんですし、そんなに金額は大きくないかもしれないのですが、備品みたいなものが新たに使われていますが、それも通常の予算の中で今までは処理をなさっているということなのですか。

(事務局：武藤)

緊急に必要なものもございましたので、あとは費用の総額を見て、通常の管理費というような形で予算にしている部分もございまして、その中から出せるものであれば、かつ緊急的に必要なものにつきましては、その予算から捻出をさせていただいたということでございます。

(西原会長)

ありがとうございます。田巻委員、よろしいですか。ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。また何かお気づきな点がありましたら最後のところで審議したいと思います。

続いて、(3) 2020 新潟ヒルクライムについて、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：中村)

改めまして、スポーツ振興課事業グループの中村と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私からは 2020 新潟ヒルクライムの報告及び説明をさせていただきます。資料は写真のある資料になります。まずは先日、9月6日の日曜日の市報にいがたをご覧になったと思うのですが、スポーツ特集ということで3面記事を載せさせていただきました。市としましても、これから新しい生活様式のもとウィズコロナとしてスポーツを市民の皆様方に取り組んでいただいて、我々もウィズコロナの中でスポーツを親しめる機会を提供していきたいと思っております。9月6日、岩室地区で新潟ヒルクライムが行われました。今年で8回目の大会になります。先ほど説明があったとおり、6月の新潟シティライドというものを毎年やっていたのですが、こちらはエントリー受付開始が4月の半ばでして、一番ひどいときだ

ったというところもありまして、これは中止になりましたが、ぜひ新潟ヒルクライムはなんとしてもやろうということで頑張って事務局も進めてきました。

まず、写真の説明からです。上の欄、競技中①、②、③とあります。③の小学生も山を登っています。上は79歳、下は小学校1年生の参加がありました。2段目になりますがハンドバイクという寝そべって手でこぐ自転車になります。今年初めてお二人の参加がありました。真ん中のタンデム、二人乗りの自転車ですが1組だけ参加がありました。真ん中の右、折りたたみ自転車に乗っていますけれども、フリーということでロードバイク以外の参加者もぜひご参加くださいということで、こういうカテゴリーもあり、この方はゴールしたみたいで、下のほうに競技中⑦、下山中①ということで、この日は非常に暑かったのですけれども、天気がよかったものですから佐渡も非常にきれいに見えたようです。

2ページ目です。2段目、受付中①のところ。外ではあるのですけれども三密を避けるための対策として、これまでにないような受付方法をさせていただいて、結果としては混雑するような状況は受付では見受けられなかったというところ。3段目のスタート前待機中で、西蒲区のいわむろやからほしい400メートルくらい道路を進んでいったところにスタート地点を設けているのですけれども、それまでの公道をこれまで以上に交通規制を延長して待機場所として使いました。選手待ちが距離を保ちながらスタート前の準備をしていたというところ。右側が小学生スタートです。小学生は距離を短く設定しておりまして、ここがちょうど弥彦山スカイラインの入り口、間瀬口になります。下段ですが、フィニッシュ後、山頂駐車場の一部を借りまして、そこで休憩していただいた後、各自同じ道を下山していただいたところ。最後に、昼食引換ということで、地元岩室の温泉地区の飲食店やお弁当屋さんなどから提供していただいた昼食弁当を参加賞として最後にお渡ししてお帰りいただいたというような写真としてのイメージになります。

続いて、3ページに結果報告（速報）ということで、開催概要、目的は自転車を活用しながらスポーツ振興に寄与する。あとは市民の健康維持・増進、交流人口の拡大を図るということで9月6日に行われました。こちらは今年、日本スポーツ協会などの公式な自転車競技大会ではないのですけれども、日本自転車競技連盟が定めているガイドラインに基づいて予防対策を図りながら例年と違った運営となりました。

2番のコース概要ですが、中学生以上は約7.6キロ、小学生は約5.3キロということで、後ほど結果をお知らせしますが、30分弱で山道を自転車で駆け上がるという、普通の人では考えられないようなタイムでした。

3番の当日スケジュールですが、8時にスタートして下山完了は10時半頃ということで、午前中での大会ということになりました。

4 ページの 4 番の気象状況です。フェーン現象がありまして非常に暑い日だったのですけれども、最高気温が 34 度という中で、熱中症の救護対応は幸いにありませんでした。

続いて、5 番のエントリー状況です。合計で 436 名の方からエントリーいただきました。過去最高とはいかなかったのですけれども、内訳で一番右下、県外の参加者が 170 名ということで、県外の参加者数としては過去最高のエントリー数でした。やはり自転車好きの自転車競技者にしても全国各地のいろいろな自転車大会が軒並み中止になっている中で、かなり待ちに待ってエントリーしていただいたというところがあるのではないかと考えています。エントリー開始が 7 月の頭でした。7 月の頭はかなり状況がよかったので、かなり伸びがよくエントリーを受け付けていたのですけれども、7 月半ばになってからまた第 2 波らしきものが始まったものですから、半ば過ぎから伸びが弱くなって過去最高とはいきませんでした。

6 番のカテゴリー別参加状況です。なるべく多くの方から楽しんでもらうということで、このカテゴリーを設けています。エントリー 436 名で当日出走してくれた方が 380 名、56 名のキャンセルがありまして、途中 3 名のリタイヤで 377 名がフィニッシュしたというところになります。

続いて、5 ページの 7 番の新型コロナウイルス感染症予防のためのキャンセルということで、全体のキャンセルが上の段で合計 56 名で、先ほど説明したとおりです。原則キャンセルの場合は参加料の返金はしないのですけれども、今回、コロナ禍ということで必要経費を引いた分を除いてですけれども返金対応するというところで新型コロナを理由としてのキャンセルについては 56 名のうち 18 名で、具体的な理由としては勤務先が県外の人と接するのを禁止したり、エントリーしたときより陽性者が増えてより心配だと。あとは体調不良。これは参加の条件として体調確認と当日の検温を実施しました。体調確認については当日より過去 2 週間において体調不良がないかどうかというところが要件になっていましたので、それで 4 名の方がキャンセルということです。ちなみに当日の体調確認、検温でのキャンセルの方はいらっしゃいませんでした。

8 番の成績については、ご覧のとおりです。

続いて、9 番のリタイヤ・救護実績ですが、リタイヤが 3 件、救護については 2 件ありました。

最後に、6 ページの 10 番の主な新型コロナウイルス感染症予防対策としまして、まず主催者としてアルコール消毒液、身体的距離の確保の設置、全スタッフにマスクの着用、受付スタッフにはフェイスシールドの着用をしました。会場内で MC やスタッフ、巡回での注意喚起。あとは運営のやり方として大きかったのですけれども、開会式や表彰式、競技結果の会場内掲示を中止しましたので選手たちはやおら受付のスタート地点に集まって、ゴールした

ら順次解散というような感じになっていました。続いて、ゼッケン、計測チップを事前郵送しました。昨年までは受付でゼッケン、計測チップをお配りしていたのですが、今年には受付の作業を少なくする、密を避けるということで体調確認と検温だけを受付で実施したということです。スタート時の密を避けるために時差スタートを今まで4グループの分けてやっていたものを15グループに細かく分けて1グループあたり30人くらいずつスタートさせました。細分化して時間がかかることもあり、地元警察のご理解のもと交通規制の延長実施。参加者の皆さんには体調確認票の提出と、ポチの四つ目、追走、協調走行の禁止ということで、選手の風よけだとかということで近づくことを禁止して、なるべく離れてくださいということで、うしろで風よけをしたりするのは禁止としました。フィニッシュ後の適宜下山ということで、昨年までは全員がゴールしたあとに、みんなでまとまって競技役員のコントロールのもと下山していたのですが、山頂駐車場もそんなに大きな駐車場ではないので密になることを防ぐために完全に左側通行にして、登るときも左側、おりるときも左側走行ということで適宜下山してもらいました。あとは大きな声での応援や会話の禁止ということと、いわむろやの建物の中でお弁当は食べないでくださいということにしておりました。

続いて、11番の地元のおもてなしということで、写真でも紹介した岩室温泉・情熱パワーランチと称しまして昼食のお弁当を11のお店から協力していただきましたし、参加賞として温泉入浴券、日帰り温泉ですけれどもこちらも6施設に協力していただきました。入賞品として3位まで商品をお配りするのですが、地元の日本酒やお菓子の詰め合わせを、表彰式をしておりませんので、これから郵送という形になります。

12番の運営スタッフですが、大会実行委員会として新潟市、県の自転車競技連盟、サイクリング協会、いわむろやを中心に、市のスポーツ推進委員の皆さん方からもご協力いただきながら合計86名のスタッフで当日運営しました。

13番の取材につきましては、昨日、新潟日報の記事に載っておりましたけれども、新潟日報さんが取材に来ていただきました。

(西原会長)

ありがとうございました。ヒルクライムの事業につきまして、何かご意見・ご質問がありましたらお願いします。

(五十嵐委員)

細かいところですが、よろしいでしょうか。ご報告ありがとうございました。細かいところをお聞きしてすみません。カテゴリー別参加状況のところ、女性の40歳以上のところで、ちなみに50歳を超えられた方はいらっしゃるでしょうかというところをお聞きしたいのです。年齢は分かりませんか。



(事務局：中村)

すみません、今ここでは資料を持ち合わせていません。申し訳ありません。

(五十嵐委員)

分かりました。男性のカテゴリー数に比べて女性が二つなので、これから50歳以上でも女性はどんどん。もちろん若いのですけれども。ジェンダー・イコリティとか。

(事務局：中村)

なるべく多くのカテゴリーでということ、細かく細かく今11のカテゴリーなのですが、参加人数とのバランスもありますので、女性は確かにもう少しカテゴリーを多くしてほしいというご要望はあるのですけれども、そうすると入賞がどうのこうのということではなくなってきてしまう可能性もあって、今のところ参加人数が女性はかなり少ないというところで。

(五十嵐委員)

分かりました。ありがとうございました。

(西原会長)

ありがとうございます。ほかに、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

次に、(4)新潟シティマラソン代替イベントについて、事務局からよろしく願いいたします。

(事務局：小熊)

続きまして、スポーツ振興課の小熊でございます。よろしくお願いいたします。私から新潟シティマラソン代替イベントということで進めさせていただきます。何の写真もなく、つまらない字だけの資料なのですが、資料4をご覧ください。本来であれば、今年で38回目を数えるはずだった新潟シティマラソンなのですが、再三お伝えしているように新型コロナウイルスということで、今年は延期といたしました。昨年の台風による中止から2大会連続で開催を見送ることになってしましまして、非常に残念なのですが、それに代わってということでもあるのですが、シティマラソンを毎年楽しみにされているランナーさんの思いに伝えるため、そしてこのウィズコロナ時代にできることということで、二つイベントを計画して今、募集を受け付けているところでございます。

一つ目は、新潟シティマラソンリモートチャレンジということなのですが、こちらはスマートフォン用GPSトレーニングアプリ「TATTA (タッタ)」を使ったオンラインマラソンになります。ランニングコースと時間を自由に設定しまして、スマートフォンをポケットの中に入れて好きなところを走っていただくということになります。各自のペースで開催期間中に完走を目指していただくこととなります。1日で種目の距離を走っていただい

でも結構ですし、複数日にわけて分割走行も可能という種目になっています。開催日は、来月 10 月 4 日から約 1 か月を予定していきまして、種目ごとに 2 週間ずつ開催期間を設けております。「マラソン (42.195 キロ)」、「ファンラン (11.0 キロ)」、こちらはシティマラソンお馴染みの種目二つなのですけれども、こちらと、あとはメインスポンサーのサトウ食品さんが実は今年で 70 周年ということもございまして、「サトウ食品 70 km」も設定しました。皆さん 2 週間ずつですけれども、最初、サトウ食品さんの 70 キロ走る人なんていないだろうと思っていたのですが、サトウさんなので 310 人の定員を設けるつもりだったのですけれども今、320 人を超える方からエントリーをいただいていますので、そのまま順調に伸びればなと思っています。参加料は 2,000 円、参加賞等を郵送させていただいて走っていただくということになっています。

続いて、こちらは実際に新潟市陸上競技場に集まっていただくイベントになるのですけれども、「新潟シティマラソン 10000m タイムトライアル」ということで、市陸を周回、25 周して 1 万メートルのタイムを計測するということになります。開催にあたっては新型コロナウイルスの予防策としまして、日本陸連のガイドランスをはじめとした関係ガイドラインに基づいて行うこととしております。こちら募集開始する直前に関東を中心にコロナがだいぶ感染が広がっていた時期でもございまして、今回は県内ランナー限定で募集をしております。開催日は本来、新潟シティマラソンをやるはずだった 10 月 11 日をメインに 9 日の金曜日から 3 日間やります。三密対策としまして、各レースの集合時間を調整して分散させるとともに、1 レースあたり 30 人から 50 人程度として陸上競技場の中にいるランナーの数、それからスタッフの数を極力減らして開催する予定でございまして、こちらは参加料 1,500 円です。

裏面にユニバーサルランということ、車いすの方を対象にしましてデモンストラクションという形で競技させていただきます。トラック 2 周、800 メートル走行していただく形をとろうと思っております。こちらは 10 月 10 日土曜日のお昼に開催をいたします。こちら参加料は 1,500 円となっています。今、15 人程度ということで募集させていただいてまして、13 名の方からエントリーいただいていますので、もう少しすると満員になるということになっております。

(西原会長)

ありがとうございました。何かご質問・ご意見ありましたらお願いいたします。

(速水委員)

これは陸上競技の公認の大会ということですか。

(事務局：小熊)

今回、いろいろ市の陸上競技協会さんと相談しまして、今回は公認レースにしませんでし

た。要は敷居を下げて、いろいろな方に参加していただきたいということで、そのようにさせていただきました。

(速水委員)

ということであれば、日本陸連のガイドラインに特に固執したということではないということですか。

(事務局：小熊)

一応、公認レースではないのですけれども、指針といいますかガイドラインとして陸連さんが出していますので、それに沿った形で大会、イベントは開催しようと今考えています。

(速水委員)

厳しいというか、そういうものはないのですか。

(事務局：小熊)

若干、厳しいところもあるのですけれども、例えば1週間前から検温しなければいけない、それから体調をチェックしなければいけないということはあるのですけれども、それは陸上に限らず、いろいろな種目が似たようなものがありますので、陸上競技だからといって特段厳しいというわけでは特にはないです。大丈夫だと思っています。

(速水委員)

それはよく分かりますが、レースをやっているときに、かなり力の差が出てきますよね。1周400メートルの中で25周するのだから、何回抜いたのか、何回抜かれたのか、本人も役員も訳が分からなくなってしまうということが、おそらく50人くらいでは考えられるのです。その辺も考慮はあると思うのですけれども。

(事務局：小熊)

そういう心配があって、今回、周回コースなのですけれども、計測チップをランナーにつけてもらって周回して、1周ごとにカウントをして、その周回ごとのタイムをみんな出せるようにして極力、あなた何周だよと指示できるような仕掛けにはしています。

(西原会長)

ありがとうございます。いろいろ工夫していただいているようですが、ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。

続いて、(5) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進事業について、事務局からお願いいたします。

(事務局：土沼)

改めまして、オリンピック・パラリンピック推進室の土沼と申します。私から資料5に基づきまして、東京2020大会の概要ということでご説明をさせていただきます。資料5をご覧

ください。先ほどからも話題になっておりますが、東京 2020 大会は誠に残念ながら聖火リレーの始まる 2 日前、3 月 24 日に急遽 1 年の延期が決定したところでございます。その後、組織委員会等で検討を重ねまして、新たな大会スケジュールというものがすでに発表されております。そちらがこちらに記載にとおりでございますが、オリンピック競技につきましては、来年 2021 年の 7 月 23 日から 8 月 8 日までの 17 日間、パラリンピック競技が 8 月 24 日から 9 月 5 日までの 13 日間ということで開催が決定しております。この決定に合わせまして、大会組織委員会では、丸ポチの五つ目でございますが、今年 6 月に来年の開催に向けたロードマップを発表しております。その中で延期に伴った経費云々というところもございまして、大会運営の簡素化、それと状況を踏まえたコロナウイルスの感染症対策の検討を年内を目途に取りまとめるということで今、準備しているところでございます。9 月 4 日、先週の金曜日ですが、第 1 回目のコロナウイルスの検討会議をされたところでございまして、年内まで 5 回ほど開催するというのを聞いております。

続きまして、本市でのオリンピック・パラリンピックの対応でございます。1 番目のまず本市での事前合宿について、本市ではフランス、ロシア、モンゴルの 3 か国を対象にホストタウン、相手国というところで登録をさせていただいているところでございます。その中で、まず（1）全ロシア新体操連盟の事前合宿と、（2）フランス空手連盟の事前合宿が決定しております。今回延期になりましたが、両連盟からは内々には来年も引き続き新潟で合宿しますということでお返事をいただいておりますので、それに向けて今、私ども準備を進めているところでございます。ロシアにつきましては、合宿の期間としては 7 月中旬、こちらが競技日程云々というところもございまして、7 月中旬から 8 月上旬にかけて約 3 週間、会場は新潟市東総合スポーツセンターで行うということでございます。規模につきましては、選手、役員の方含めまして最大で 40 名ほどで事前合宿を行うところでございます。ロシアの新体操につきましては、すでに昨年、一昨年開催した世界選手権で個人競技、団体競技とも出場が決まっておりますので、最大規模に近い人数で合宿をするというところで準備を進めております。

続きまして、フランスの空手連盟でございますが、7 月下旬から 8 月上旬にかけて約 2 週間、亀田総合体育館にあります武道場で合宿を行う予定としております。規模につきましては最大 23 名になりますが、こちらがまだ実は空手の競技につきましては出場選手が決定しておりません。本来ですと今年の 5 月に世界最終予選というものがあって、そこで決定する予定だったのですが、それが来年の 6 月まで延期をされております。その関係もありまして、出場選手の方々については直前まで決定しないというところでございます。ただ、フランスにつきましては今、目標として空手については 8 競技でございますが、そのうち 7 競技で出場

を目指すというところで今、準備をしているところでございます。

続きまして、(3)パラリンピック競技でございますが、私どもフランスのパラリンピック競技を対象に誘致活動を進めているところでございます。昨年も9月にフランスのパラリンピック委員会の事務局長にお会いして意見交換をしたりしているのですが、このコロナ禍というところもございまして、まだ誘致の決定には至っていないというところでございます。引き続き、誘致活動をしていきたいと考えております。ただ、この事前合宿につきましては、先ほどもご説明させていただきました、組織委員会の感染症対策はかなり影響が大きなところがございます。その状況によっては合宿の規模についても、もう一度、一から検討しなければいけないというところもあろうかと思っておりますが、引き続きそういったところにつきましては、私どもも情報収集に努めて、両国の連盟と順次意見交換や協議をしていただきたいと思いますと考えております。

続きまして、2番の聖火リレーでございます。こちらについても先ほどのとおり、聖火リレーのスタートの2日前に急遽延期が決定したというところでございますが、組織委員会では今現在、どういったやり方にするのか検討をしているところでございますが、組織委員会から新たな聖火リレーの日程、実施内容等については、これまでの基本的なフレームを尊重しながら今後、設定すると発表を受けているところでございます。聖火リレーの本市のところにつきましては、(1)に記載しているとおりののですが、当初の予定では今年の6月6日土曜日に予定しておりまして、走行ルートにつきましては、信濃川の萬代橋の下流の右岸にあります万代テラスをスタートし、萬代橋、榎谷小路、古町5・6を通りまして、その後西堀に出て、最後に新潟市陸上競技場でゴールということをご予定しておりますが、全16区間、16名の聖火ランナーの方から走っていただくということをご予定していたところでございます。スタート地点の万代テラスでミニセレブレーションということで出発式を開催する予定にしておりました。こちらにつきましても引き続き準備を進めていきたいと考えております。

続きまして、(2)パラリンピックの聖火フェスティバルでございます。パラリンピックにつきましても、オリンピックと聖火リレーの方法が異なりまして、聖火リレーは47都道府県全国を回るのですが、パラリンピックにつきましても、全国で採火というのですか、例えば新潟市の火ということで新潟市の火を採火しまして、それを都道府県ごとに集めて新潟県の火にすると。その後、東京に運びましてパラリンピックの聖火として開催4都道府県になるのですが、競技会場で4府県を走るということをご予定しています。新潟市につきましても、8月6日に新潟市陸上競技場で全国障がい者スポーツ大会に出場する新潟県の選手団の合宿と合わせて、その中で採火をしようというところをご計画していたのですが、こちらでも延期というところで、引き続き、来年に向けて準備を進めていきたいと考えています。

(西原会長)

ありがとうございました。オリパラの推進事業につきまして、何かありましたらお願いいたします。

(山本委員)

私、そろそろ帰らなければいけないので申し訳ないのですけれども、まずお願いなのですが、今日の会議の内容からすると報告事項が非常に多いのですけれども、報告事項だけ考えると、もう少し簡潔に報告していただかないとおそらく帰られてしまう先生もいらっしゃるのでは、協議1、2に関しては、やはり時間をかけなければいけないのですが、報告に関してはやはり簡潔に、今日の内容からすると、とても1時間半もかかるような内容ではないと思うので、その辺、今後もやはり集団で集まること自体を制限すべき時期だと思しますので、ご考慮いただきたい。

もう一つ、今回コロナの問題で一番スポーツで被害を受けているのは子どもたちなのです。子どもたちには成長に大事なスポーツをいかに子どもたちに提供しなければいけないかということで、コロナは人と人を分断してしまっているのです、私は今回、この新潟市のスポーツの事業をコロナを契機に少しいろいろな面で変えるチャンスではないかと思うのですけれども、一つはもちろん感染予防というものはスポーツでいかにやるかということは、もう最優先でやらなければいけないし、それで皆さんいろいろ工夫されていると思うのですけれども、もう一つ、今回いろいろな大会が企画されている中で、例えば保護者も見に行けない、人が子どもたちのやっているスポーツをいかに見てもらうかというようなことを、ぜひメディアを使って、例えば新潟市の時間枠を作ってもらって、いろいろな大会で子どもたちをテレビで中継してもらおうとか、インターネットで見られるような形を作ってくださいことで、子どもたちもやり甲斐を持てるし、やはり子どもたちがスポーツをやる姿を見ることが社会を元気にする大きな活力になると思うので、そういう新たな事業を新潟市のスポーツ振興に作っていただきたいと思うのですけれども、それが本当に可能かどうかは分からないのですけれども、やはり子どもたちがスポーツを楽しむということがいかに大事かということ、すごく今回私も病院にいて思ったので、ぜひそういうことを今後の第3期に向けて、何か入れていただければ大変有り難いと思います。言いつ放しで帰ってしまって、申し訳ありません。

(西原会長)

いいえ。ありがとうございました。

オリパラのことが今、議論になっていますが、山本委員から、せっかくそういった意見もありますので、ほかに何かありますか。速水委員。

(速水委員)

今の山本先生の話に該当するのですけれども、行政のメンバーというのは言葉は悪いのですが、あまり子どもたちに関係していないスポーツ、体育のメンバーの人が多と思うのです。というのは、教育委員会の人ほとんど入っていない。この次の方向になるのでしょうか、教育委員会と市長部局が一緒になって新潟市のスポーツを前に進めるような場所を考えていかなければいけないと思っていたのです。そういう面では、非常にいい発言をしていただいたと思いました。

(事務局：武藤)

今回、コロナに関して言えば、なかなか子どもがスポーツに携われなくなってくるとか、そういったことにつながってきているということは認識しておりますし、今、速水委員からご指摘のありましたとおり、教育委員会との連携という部分につきましても、今回のコロナに関してもさまざま施設の利用のあり方ですとか、学校の施設のあり方ですとか、そういった部分をはじめ、さまざま連携していかなければいけないなということは今回、非常に感じたところでありますので、引き続き、教育委員会と市長部局がどのような連携の取り方をすべきかということは研究をさせていただきたいと思っております。

(西原会長)

ありがとうございます。以前から教育委員会もぜひここに参加していただいたり、関連する部局の方に参加していただければということは話をしていましたが、引き続きご検討いただきたいと思えます。

それから、報告について今、山本委員からありましたけれども、簡潔に。多分、事務局ですごく一生懸命やられているという熱い思いがあるかと思いますが、簡潔にしていればということをお願いします。

ほかに、いかがでしょうか。最後にありましたらお願いします。

最後になりますけれども、(6)令和3年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)新潟市開催について、お願いします。

(オブザーバー：本間)

この4月に新潟市教育委員会学校支援課に立ち上げました高校総体準備室の本間といいます。今日はこのような貴重な時間をいただき、大変ありがとうございます。簡潔に説明させていただきます。1、目的はそのとおりであります、とにかく高校生最大のスポーツの祭典でありますよということであります。2、開催地。来年度に北信越ブロックで開催いたします。インターハイは全都道府県を一巡して年号は分かりませんが、いつからか9ブロックということで具体的には北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州、こ

のブロック制で回っているということでもあります。来年度は北信越に来ます。さらに主催はそのとおりであります。4、開催時間は来年度7月24日土曜日から8月22日となります。しかしながら、オリンピック等の関係で、オリンピックが終わって、そしてパラリンピックまでの間の2週間程度にほとんどの競技がそこに集中しているということでもあります。具体的には競技役員の確保、あるいはオリンピックの事前合宿等ということの中で2週間にグッと短縮されているというところでもあります。5、開催競技及び日程であります、そこに書いてあるとおり、福井県が今回は中心開催県で、多くの競技を持ちます。新潟県は平成25年のときに中心開催県でありました。

裏の2ページをお願いします。9月4日の金曜日に、実は報道リリースが初めてされて、もう皆様方にこのようなお話ができると。9月5日の土曜日にほんの小さくこれが載っていたわけではありますが、(2)新潟県開催競技日程で、新潟市のところだけ確認しますと、新体操が8月21日から22日、それから女子バスケットボールが8月10日から15日であります。新体操は皆さんも知っているように男子もあります。女子は48チームが団体で来ますし、男子は24チームでありますし、バスケットボールは51チームが来ます。開催県枠ということで、県チャンピオン1チーム、そして開催県枠1チームということで2チームがそれぞれ出てくるということでもあります。6、新潟県開催種目における参加想定人数で、新潟市は延べ6万3,000人ということではありますが、女子バスケットボールについてはほしい5万人程度、そして新体操については1万人程度と見込んでおります。7、新潟市実行委員会ではありますが、コロナの影響で集まることができなく、総会及び設立総会については書面で行ったということでもあります。

もう1枚目のところに実行委員会の名簿が載っております。名簿番号の35番、皿監事は本日、本委員会の会長様となられた西原委員から後ほど依頼を差し上げたいなと思っておりますし、この審議会の中で山内委員、速水委員、そして武藤委員からも市の実行委員会のメンバーに入っていていただいております。

最後になりますが、来年度のインターハイはどうなるのかなということを私たち準備室の者が非常に心配しているところではありますが、まずもってオリンピックなど、さまざまなスポーツイベントが今後、開催されていく中で、そしてどのようなガイドライン、どのような開催の基本的なガイドラインが出てくるかということが今後の注目ではなかろうかと思っておりますし、私個人としては無観客でもインターハイは実施してほしいなと、2年連続で高校生の夢を奪うようなことはしたくないなと、そんな思いの中で準備を進めておりますが、いずれにしろ皆様方からご理解とご協力をいただきながら、新潟ならではのインターハイにしたいなと思っております。よろしく願いいたします。



(西原会長)

ありがとうございました。インターハイにつきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。よろしいですか。

用意した議事は以上ですけれども、全体をとおしまして、皆さんからご意見等ありましたら。先ほど山本委員からいろいろな話もありましたけれども、いかがでしょうか。今日は大きな事業を説明していただきましたが、実は、子どものいろいろな教室や運営事業などもやられると思いますが、多少、何かその辺というのは中止になったものもありますが、やったものもあるのですか。

(事務局：武藤)

資料2の中で、子ども関係でいきますと3ページの④少年少女スポーツ大会、これは大会そのものは今週末からということなのですけれども、このうち例年、野球、サッカー、ミニバスケットボール、バレーボールとやっておりますが、そのうちミニバスケットボールだけ中止になっております。あとは基本的には今のところは予定どおり実施となっております。

(西原会長)

ありがとうございます。ということで、子ども向け事業も新潟市のほうでは行っているということで、そこだけ誤解のないように。

(小島委員)

小島です。よろしくお願いします。私は新潟市ミニバスケットボール連盟にも所属しております、少年少女スポーツ大会に、チームとしては出たいというチームもあったのですが、どうしても大会を運営するにあたり、JBAからも言われていることが1日1試合しかできないと。午前と午後でそれぞれすべて入れ替え、毎回消毒。それについてスタッフがどこをするのだということを決める時間もなく、ミニバスに関しては開催日がもともと8月22日だったのですけれども、まだその頃だと練習もままならない、対外試合もしていないというところで、さすがにケガも多くなるだろうということで、新潟市のバスケットボール連盟としては断腸の思いで中止ということにしたのですけれども、今回秋の大会についてもそのルールはそのまま、午前と午後と全部総入れ替えで1チーム1試合でというのは、まだ継続しています。少年少女について、それぞれの各団体に少年少女スポーツ大会をやるから申し込んでねと。すべて運営に関しては各団体なのだけれども、もう少し主催者側としてスポーツ振興課が、例えばミニバスだったら、こういったアドバイスであったり、例えばサポートといったものがあればもう少し考える余地もあったのかなとも思ったので、ただ主催するだけではなくて、あくまでも運営は新潟市のバスケットボール連盟になりますけれども、子どもたちの安全を考えた上で新潟市のスポーツ振興課が、このような「大会運営については」と

いうものをきちんと行政から出てくれれば、もう少し安心して開催できたのかなと思います。来年、新型コロナウイルスがなくなっていることを期待して、それこそ今年、ヒルクライムだったり、いろいろな事業を開催してくださっていることにすごく感謝しています。ありがとうございます。

(西原会長)

ありがとうございました。ほかに、いかがでしょうか。

(五十嵐委員)

新潟市スポーツ推進計画の第2次「スポ柳都にいがた」プランの、この冊子や概要版は、どの程度広まっているのか、お配りしているのかをお聞きしたいのと、まだこの中に以前の市長さんの写真や「平成34年度まで」など、その辺なんかもぜひ刷新していただければと思います。

(事務局：武藤)

作ったときに、どこまでお配りしているかということは今お答えできないのですが、概要版につきましては、各区の窓口を設置をさせていただいております、自由に持っていていただいているというところがございますし、この計画そのものは、作ったときは平成34年度まで、令和4年度までということになりますので、新しい計画を策定するにあたって見直しが必要な部分については見直しをしていきたいと思っています。

(西原会長)

表紙の篠田市長のところだけ差し替えるのはなかなか難しいのでしょうか。

(事務局：武藤)

文章そのものが篠田市長から執筆いただいた文章になりますので、差し替えるとなると、この文章だけになりますけれども。

(西原会長)

冊子はもう在庫が結構あるという。

(事務局：武藤)

計画そのものを例えば計画の期間内に見直しをするということであれば、あいさつ文も含めた見直しということも出てくるかもしれないのですが、計画そのものを見直しするというような計画はありませんので、そういった意味では、この部分についてはこのまま計画が終わるまでということになると思います。

(西原会長)

分かりました。

(西原会長)

ありがとうございます。ほかに、いかがでしょうか。

(速水委員)

違うことでいいですか。来年の東京オリンピックあるいはパラリンピックで現在までで新潟市民の人たちで選手や候補に選ばれている人はどのくらいいるか、楽しい話題を聞きたいと思います。選手でも候補でも。

(事務局：土沼)

まだ正式に新潟市出身でという方は、正式には私のほうも聞いておりませんが、ただ候補としましては、医療福祉大学の水泳の水沼選手、アルビのランニングクラブにいらっしゃる競歩の小林選手といった方が候補でいらっしゃると伺っておりますし、パラリンピックもマラソンの永田選手がいろいろ新聞などで候補だということで私は伺ってはおりますが、その辺は丸田さんのほうが。

(丸田委員)

彼は世界記録に近い記録は持ってはいるのですが、この情勢下で予選会に行けないという状況で、実は昨日も相談があつて、アメリカにレースがあるので行きたいということで話があつたので、そこさえクリアできればそうなるかなというところかと思います。2時間30分以内に走れる実力は持っていますので。

(事務局：武藤)

あとは選手ではないのですけれども、新潟市の職員で今は非常勤嘱託で林という職員がおりますが、空手の男子の形の監督、組手の監督をしておりますして、引き続きオリンピックまで監督ということで従事をする聞いております。

(丸田委員)

野田さんが教えている子どもは残念ながら新潟市ではなくて京ヶ瀬なのでありますが、世界ランク2位です。コーチは新潟市ですのでよろしくをお願いします。

(西原会長)

ありがとうございました。候補だから確定していないのですよね、決定している人はいないと。ほかに、いかがでしょうか。よろしいですか。

これで終了させていただきたいと思いますので、司会を事務局にお渡ししたいと思います。

(事務局：新井田)

西原会長、どうもありがとうございました。スムーズな進行をしていただき誠にありがとうございます。また、事務局では委員の皆様から本日頂戴いたしましたご意見を今後の取組みに反映するよう努めていきたいと思っております。

以上をもちまして、令和2年度第1回新潟市スポーツ推進審議会を終了させていただきます。

す。本日はお集まりいただき、誠にありがとうございました。

終了 16時40分